

酒々井町長への手紙  
(令和7年7月受付、回答)

おしゃれと男女共同参画について (課題・要望)

- 貴重なお時間をありがとうございます。

私が「おしゃれのジェンダーギャップ(GG)」を意識したのは21世紀でした。数多くの職場で、男性の茶髪(染髪)はタブーであり、女性の茶髪は寛容なダブルスタが“当たり前”になっている。

次の2つのpointを指摘します。『』(3か所)は考えるヒントとしてほしい。

- 【(point1)おしゃれと身だしなみ】

『1)おしゃれは“自分視点”、身だしなみは“他者視点”』です。近年はおしゃれが多様化していますが、他者も好印象とは限らない。タトゥーや腰パンなどは嫌悪されやすい。だから身だしなみが必要です。

茶髪は身体改造を伴う目立つおしゃれで、以前「社会人の身だしなみ」として男女ともタブーが“当たり前”でした。今日でもネガティブな印象を受ける人はいます。

『2)おしゃれは“権利”、身だしなみは“責任”』です。おしゃれは個人の自由ですが、不快に感じる人がいる限り「身だしなみとして」不適切だと思います。

- 【(point2)ジェンダーとバイアス】

「ジェンダー平等の実現」は社会の課題であり、国連のSDGs(持続可能な開発目標)にも掲げています。

近年では、アンコンシャスバイアス(無意識の思い込み)が注目されています。皆さんは「おしゃれ=女性」のイメージはないでしょうか？女性にはおしゃれのアドバンテージがあります。

「男性は仕事、女性は家事」のような、『3)「女性はおしゃれ、男性は身だしなみ」のジェンダーバイアス(GB)』により、おしゃれと身だしなみのダブルスタが広く“当たり前”になっていると思います。

- 【(要望) おしゃれと男女共同参画】

おしゃれと身だしなみのGGやGBなんて考えたこともない、という人は多いと思います。ですが、ぜひ“当たり前”を考えてほしい。

とくに大事なのが「学校教育の現場」です。ここでも茶髪の女性教職員はいて、茶髪の男性教職員はいないと思います。

もちろん教育現場だけではなく、女性が活躍する社会において、福祉や医療、金融や観光など多くの職場で、「おしゃれと男女共同参画」について話し合っ

ていただきたいと思っています。

## ■回 答

このたびは、貴重なご意見をお寄せいただき、誠にありがとうございます。

おしゃれと男女共同参画についての深いご指摘や考察は、私たち行政にとって大変参考になります。特に、学校教育や職場における身だしなみのあり方について、多角的な視点からご提案いただきましたことに感謝申し上げます。

今後とも、いただいたご意見を真摯に受け止めながら、多様性を尊重しつつ公平で包容力のある社会づくりを進めてまいります。

担当課《くらし安全協働課》